みの MINO EDO
東京　笠原情報誌　MAIL版

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-3218
発信：多治見市・笠原町東京情報局
tilesea.ms@gmail.com

＊協議会のウェブサイトでも公開しています。

NO 243
2026.3.30

特集 | 建築・建材展 セラミックタイル美濃2026

TOUCH THE TILE TAJIMI IN TOKYO

タイルの町、多治見・笠原の魅力発信



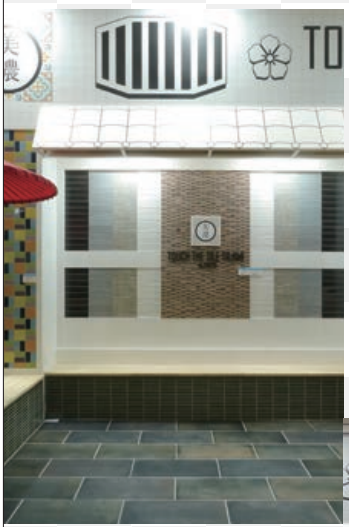
3月3日（火）～6日（金）の4日間、第32回「建築・建材展 2026」が東京ビッグサイト（東京都江東区）にて開催された（主催：日経新聞社）。同展は、各種建材、設備機器などを幅広く紹介する建築総合展。
多治見市美濃焼タイル振興協議会が主催し、タイルメーカーや商社が出展する「セラミックタイル美濃2026」の展示内容を紹介する。

インフォメーションブースは、多治見にある蔵づくりの町並みをイメージし、展示空間の一辺に設置した。焼き物の産地としての多治見や美濃焼タイルを紹介するコーナーも設けられた。





各社のカタログを紹介（上）。
インフォメーションカウンター（左）。



日本のモザイクタイル生産量日本一を誇る
多治見・笠原を中心とした
岐阜県美濃地域の魅力を五感で体験



休憩コーナー（上）とドリンクカウンター（右）。タイル張り体験の参加者にドリンクをプレゼントした。





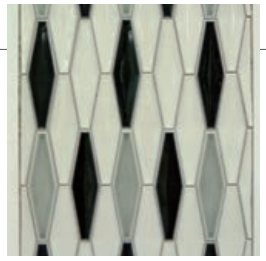
タイル張りの体験コーナー。多治見の四季を描いた下絵に花の形のタイルを張る。春・冬は多治見の古い街並み（織部ストリート）、夏はモザイクタイルミュージアム（笠原町）、秋は永保寺（虎渓山）の風景。

「セラミックタイル美濃」各社ブース





今回は13社が出展し、工夫を凝らしたブースを設置し、新商品や試作品を披露。ブース間の通路幅を広く取り、歩きやすさに配慮した。





(株)アイコットリョーワ

「床に湿式を」をテーマに掲げ、ブース外側に張ったタイルに、スツールや靴を設置。湿式タイルの表情や温かみ、素材感が現代建築におおらかさや味わいをもたらすとしてその魅力を伝えた。新製品「グリッド・トラヴァ」は95×45ミリという小さなサイズで、トラバーチンの横筋模様を細やかに再現する。

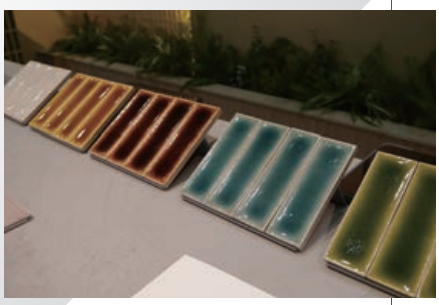




(株)エクシィズ

研究開発部門のecorevo(エコレボ)が開発した「Uool(ウール)」を紹介。家電の製造過程で出る断熱材グラスウール(ガラス繊維)と、粘土鉱山の廃棄物を再生し、100%リサイクル原料によるタイルを実現した。焼成温度を下げ、環境負荷も低減。釉薬の溜まりによるグラデーションや、グラスウールの質感が特徴。





(株)オザワモザイクワークス

アースカラーの温かみのあるタイルをメインに、カウンターなどの什器、室内に飾るパネルなど様々なイメージを提案。また、試作品を数多く展示し、新商品を決めるためのアンケートを実施。回答者には「箸置き」タイルをプレゼント。併せてノベルティやギフトとしての提案も行った。







（株）カネキ製陶所

落ち着いた色調のタイルパネルを並べ、試作品のほか、人気商品・古窯変（こようへん）の新作を紹介。ブース入り口付近の壁面では、背後にLEDライトを設置したアクリル板にタイルを張り、目地部分を光らせるという新たな提案も行った。





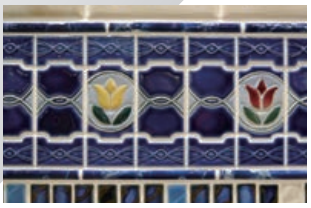


三協製陶（株）

壁のパネルのみならず、床にも隙間なくタイルを張り、新商品や試作品を紹介。主にアメリカに向けて多種多様なプールタイルを販売してきたことから、青色系のタイルを得意とする。かつて制作していたタイルにアレンジを加えて、レトロモダンな新商品を生み出す取り組みを展開中。





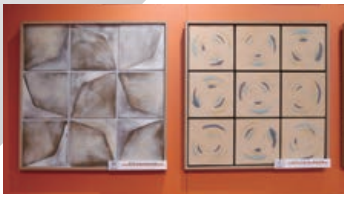


杉浦製陶（株）

コーポレートカラーであるオレンジ色を使った空間。毎年、試作品の人気投票を実施し、上位になったものを商品化。今回は、新たに導入したスクリーン施釉による試作品を数多く展示した。新製品の「MU Border」は、断面がUの字のボーダータイルで、しっとりとした黒が落ち着いた空間を演出する。







（株）セラメッセ

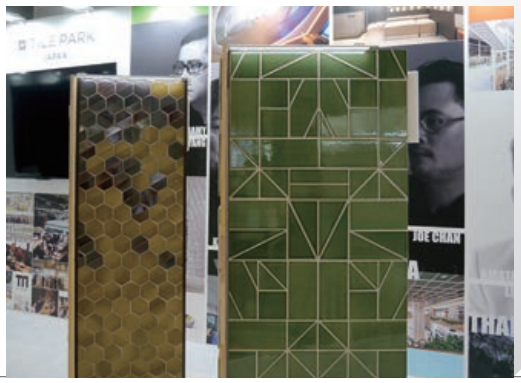
45二丁（95×45ミリ）の外装タイルを主力製品とし、現代の日本の風景になじむ面状や、色のバリエーションを豊富に揃える。「Caita」は、45二丁は24色、100角は12色を揃え、形と色を自由に組み合わせてオリジナルの空間を作り上げることができる。





(株)TNコーポレーション（ティーエヌ）

新製品「Re-Clay Tile」（リクレイタイル）は余剰釉薬をタイルの素地に利用したもので、独特の風合いと美しさを持つ。3色を揃え、床タイルも年内に発売予定。アジア各国のデザイナー6名とコラボレーションした「Master Series」では、屋根や竹、国旗などから着想したタイルを紹介。



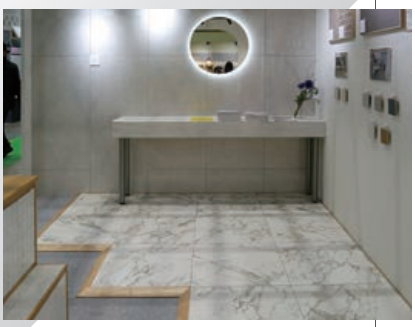




(株)TChic（ティーシック）

主力製品である自社製の大判タイルを用いた空間。インドの霊廟に使われた白大理石をイメージした「タージマハル」のほか、カウンター正面には国内の銘石を表現したタイル・倭（やまと）シリーズの「笏谷石（しゃくだにいし）」を使用。4月から新工場が稼働、1200角サイズの製造も可能となる。

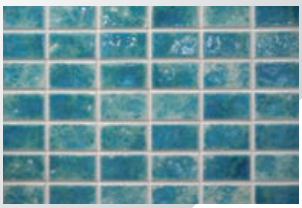




長江陶業（株）

産地問屋として地元多治見の商品をはじめ、海外のメーカー、自社で企画したオリジナルまで、多種類のタイルを扱う。今回は美濃の地に根付く多様なリサイクルタイルを紹介。有田焼の老舗メーカー・香蘭社とコラボレーションしたタイルは新製品を製作。鮮やかな空色が目を引く新製品「Zin-Grace」は、釉薬を3度掛けして生み出された豊かな表情が持ち味。





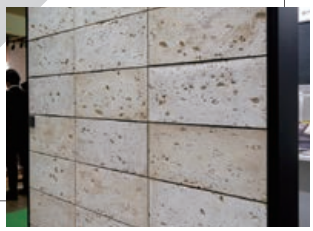


ニッタイ工業（株）岐阜工場

煉瓦メーカーとして創業し、80年以上湿式タイルを製作する。大和石シリーズはモルタル材を用い、希少価値の高い札幌軟石と琉球石灰岩を表現したタイルで、石材より軽量かつ耐久性に優れる。「グレイノート」は濁りのないグレーを実現した製品で、4つの色調と3面状を組み合わせて使用することができる。







(株)丸喜

商業施設から住宅の壁から床まで、幅広く使用できる大型セラミックタイルを展示。「ライムス」は、ライムストーンをイメージしたもので、色はブラック、グレー、ベージュ、ホワイトの４色展開。面状はマット、スジ面、グリップ、20ミリ厚を揃えており、外壁からアプローチ、内装まで統一できる。





(株)丸澤

日本をイメージした商品をメインに展示。ケヤキやヒノキといった木目調のタイルは自社でデザイン・開発したオリジナル商品。幅は、ケヤキ300ミリ、ヒノキ150ミリで、実際の板材に合わせている。節や木目が凹凸で表現されており、光を当てると反射して光る。「古窯敷瓦」はインクジェットにより風合いを表現している。





今年も開催します!

タイル感謝祭&Touch the Tile Tajimi

4月19日(日)　タイル感謝祭

時間:10:00〜15:00

場所:モザイクタイルミュージアム前広場

毎年4月の日曜日に開催している「タイル感謝祭」。タイル産業に関わるすべての人たち、資源、支えてくださる地域の皆さんに感謝するとともに、タイルを楽しんでもらう一日。陶祖への神事をはじめ、ステージイベント、出店販売、ワークショップなど盛りだくさんの内容。

イベントの詳細は、「タイル感謝祭」公式Instagramを参照。





インフォメーションブースでもチラシを置いて紹介。

6月1日(月)〜6日(土)　Touch the Tile Tajimi

多治見市周辺のタイル関連施設にて、様々なイベントを開催!

6／1(月)〜6(土)	**タイル関連会社のオープンファクトリー&ワークショップ**
6／3(水)	**トークイベント「次の世代へのタイル産地の可能性を解く」**
6／5(金)・6(土)	**プロユーザー向け タイル関連ファクトリーツアー in 多治見** 普段は公開されていない工場を含め、原料・釉薬・成型・焼成までを巡る。現場の技術者との対話を通じて、素材とものづくりの背景を体感できる。



イベントの詳細・参加申込方法　**体験型観光イベントサイト「多治見るこみち」から事前予約が可能。**

多治見市モザイクタイルミュージアムより

タイルの新たな魅力を探る、大学と産地の共同研究が進行中

産学連携モザミュータイルラボ リレープロジェクト

2階の産業振興エリアでは、タイル産業関係者と教育機関が連携し、タイルの新たな可能性を探求するプロジェクトが進行中。5年計画で展開し、第2弾となる今年度は、愛知淑徳大学と椙山女学園大学が参加。その内容および成果について紹介する。

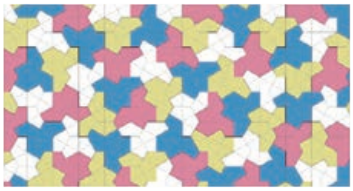
※モザミュー：モザイクタイルミュージアムの略称

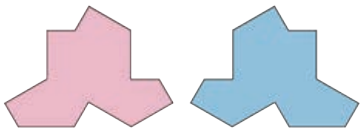


産地の工場見学からスタートし、学生たちは視点と感性を深めながら研究を進めた。

愛知淑徳大学　「アインシュタイン・タイル」に着目

同じ形を無限に並べても決して周期的にならない「アインシュタイン・タイル」に着目。立風製陶株式会社の協力のもと実際にタイルを製作した。そのタイルを使った子ども向けパズルワークショップを実施。数学的な面白さとタイルの造形美を組み合わせ、新しいタイル体験を提案した。タイルは商品化も検討されている。





並べる際に裏表を使用するため、反転した形も製作した。



ワークショップの様子。

椙山女学園大学　タイル製造工程を“ひとつの町”として表現

タイルの製造工程を「生き物が暮らす町」に見立てて作品を制作。原料工程をモグラ、焼成工程をドラゴンといった具合に、工程をキャラクター化し独自の世界観を構築した。物語性を持たせることで、子どもから大人まで楽しめる新しいタイルの魅力を発信する。

つくりあげた世界観は、今後「絵本」としてまとめていく予定だ。



土のドームの建物で働くモグラ。土を掘り出してこね、タイルの原料を作る。



協賛企業へプレゼンテーション

1月には関連企画として、両大学の学生によるプレゼンテーションを開催。2校の学生に加えて、協賛企業から18名が参加し、タイルをテーマに交流を深める有意義な時間となった。

今後も大学が毎年入れ替わりながら研究をつなぎ、東海地域全体、さらには全国へと美濃焼タイルの魅力を発信していく取り組みを続けていく。



産業振興エリアでは、成果を展示中（7月31日までを予定）。

タイル尽くしの元銭湯で写真展を開催

――追浜・鷹取温泉 応援企画「在りし日の記録展」

3月21日（金・祝）～22日（日）、元銭湯の鷹取温泉（神奈川県横須賀市）で写真展が開催された。同温泉は2019年に廃業後、昨年レンタルスペースとして再生。モザイクタイルで覆われた空間は古き良き建物を愛する人たちで賑わった。





元の裸婦像にアレンジが加えられているため「東郷青児ふう」。モザイクタイルミュージアム特別展の監修を務めた加藤郁美さんが写真を出展するとともに、パネルで「東郷青児タイル裸婦像」の歴史を紹介していた。

東郷青児ふうのモザイクタイル画が大集合！



タイルが張られた円柱が存在感を放つ（上）。銭湯や遊郭のタイルを愛するKIKIさんは「ここまでタイルがある銭湯はなかなかない」と話す。
女湯には魚たちの可愛いモザイクタイル画がある（下）。

京浜急行「追浜駅」前の大通りから路地に入り、昭和の風情が漂うスナックを通り過ぎると、古いビルの1階に「鷹取温泉」の文字が見えてきた。「ここに銭湯が？」と意外に思いながら、脇の階段から2階へ。来場者で賑わう脱衣場を通り抜けて浴室に足を踏み入れると、モザイクタイル画で彩られた贅沢な空間が広がっていた。

展示されているのは、銭湯や純喫茶、旅館、妓楼などの建物やその内部の写真。今は存在しないものをメインに、地元・神奈川県で今なお残る建物が紹介されている。タイルを写した作品も多く、うっとりと見入る。全国各地の東郷青児風のモザイクタイル画の集合は、この場所ならではの企画だ。

主催したのは篠田なおきさん。昨年、鷹取温泉をレンタルスペースとして活用するためのクラウドファンディングで支援。リターンの「3日間貸し切り」を活用し、多くの人にモザイクタイル画を見てもらい、この場所の魅力を伝えたい、と考えて写真展を企画。出展者の一人でもあるKIKIさんが呼びかけ、Instagramなどで活動する10名が出展した。

「予想以上にいろんな人が来てくれました」と篠田さん。近所の方からは銭湯時代の話を聞くことができ、男湯のモザイクタイル画を初めて見たと話す女性もいたそうだ。

会場のそこかしこで建築やタイル談義が盛り上がる。その中で、近くを訪れるたびに現存を確認していた建物の解体を知った。写真展のサブタイトルが「今は無きあの風景」であるように、情緒ある建物が次々と失われていく現在、この場所が稀有で幸福な例であることを実感する。今後も多くの人にタイルの魅力を伝えてくれることだろう。

【出展者】（あいうえお順）

井上健二　@erekutoon_uranai
win　@win022403
加藤郁美　@katoikumi
KIKI キキ　@kikikawamura
篠田なおき　@yoichonaochi
じゅの　@juno_nagoya
鷹野律子　@mayumama5
町井成史　@useless_landscapes
正脇良平　@kagaizomeki
Red Jaguar　@e49fxn

【特別展示】

ホーロー看板博士ちゃん
@showa_retoro_mania

Instagram



バーカウンターに募金箱が設置されていた。入場料代わりの500円以上のお気持ち募金は、イベントスペースの運営に役立てられる。

